



琉球大学

第36号

同窓会会報

平成26年3月10日



卒業式で総代としてあいさつする上原健一氏、右は与那嶺松助学長 1963年3月11日 (21ページ参照)

目次

■会長あいさつ	2	■支部活動報告	12
■学長あいさつ	3	・支部活動報告	12
■同窓会事務局情報	4	・学部・学科同窓会情報	15
・平成25年度定期総会概要	4	■インタビュー	16
・平成24年度決算	4	■教育余話	19
・平成25年度予算概要	4	■母校情報	20
・平成25年度事業計画	4	■学生活動紹介	21
・平成25年度支部長会	5	・サークル活動紹介	21
・支部長及び事務局長連絡先	6	・51年前の卒業式 (表紙写真説明)	21
・平成26・27年度の役員選考作業が始まりました	6	■文芸活動欄	22
・創立60周年記念事業検討作業スタート!	7	・文芸作品投稿コーナー	22
・第42回沖縄の寮歌・大学の歌祭りに参加	7	・龍樋硯心会書道展の開催 (お知らせ)	22
・「シンポジウム2013」を開催しました	8	■お知らせ&お願い	23
■琉球大学支援事業	10	・平成26度「定期総会」等開催のご案内	23
・琉球大学へ課外活動奨励金を贈呈	10	・会費の納入について (お願い)	23
・「平成25年度教員候補者選考試験」対策講座実施結果	10	・退職される恩師紹介	23
・私の合格体験記	10	■人物来訪	27
・「平成26年度教員候補者選考試験」対策講座計画表	11	■編集後記	27

会長あいさつ



琉球大学同窓会会長 幸喜徳子
(教育学部体育科 1966年 14期卒業)

60周年の節目を迎えて

春の花々が千原キャンパスを彩るこの頃ですが、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は琉球大学同窓会へ一方ならぬご協力を賜り誠に有難うございます。

昨年、琉球大学では大城肇学長、同窓会担当に外間登美子副学長が就任され、記念すべき年でもございました。今年の大学主催、賀詞交歓会においては同窓会に対する並々ならぬ期待が込められた学長ご挨拶を賜り、身の引き締まる思いでもございました。同窓会三役一同、大学側とさらに連携を密にした会運営をとの意を強くした次第です。

平成25年度の諸事業も滞りなく推移しているところであり、とりわけシンポジウムでは各界の専門家の方々により、沖縄の将来像について明るい話題が提供されました。沖縄の伝統工芸品である紅型や絣等を活用したミニ・ファッションショーは満場の参加者の目を奪いました。素人ながら同窓生にモデルを務めて頂き、ユーモラスでより親近感を感じさせるものとなりました。参加者及び関係各位そしてマスコミ各社のご協力に心より感謝申し上げます。

本年12月は1954年に同窓会発足以来、60年の節目にあたります。従来 of 事業の他、同窓会設立60周年記念行事実行委員会を立ち上げ、諸準備にとりかかっているところでございます。その一環として大学が実施するホームカミングデーへの協力なども提案があり、かつてない多忙な日々になろうかと思われます。

これからも同窓生の親睦交流、母校の支援、7支部の活動支援、社会貢献活動などを柱に、充実した会運営に努めてまいる所存でございます。

本会報には、県内外の各企業から広告のご協賛を賜りました。この場を借りて衷心よりお礼を申しあげます。ありがとうございました。

結びに、皆様のますますのご健勝、ご活躍を祈念申し上げ挨拶と致します。

学長あいさつ



国立大学法人 琉球大学 学長 大城 肇
(法文学部経済学科 1974年 22期卒業)

同窓生のネットワークづくりに協力します！

琉球大学同窓会が、創立60周年の記念すべき年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。和氣政雄初代会長以下、歴代の会長及び役員の方々のご尽力・ご労苦に対し、深く敬意と感謝の意を申し上げます。

琉球大学は、64年の歴史の中で、7万4千人にのぼる卒業生を社会へ送り出して参りました。本学を巣立った同窓生の皆様は、沖縄県をはじめ、全国さらには世界を舞台に活躍なさっておられます。本学の同窓生が、各界各層でキーパーソンとして活躍されていることをたいへん心強く思い、誇りにしているところです。

ただ残念なことに、7万人を越す同窓生の人的ネットワークが必ずしも十分に構築されているとは言えません。琉球大学で過ごした青春の思い出を胸に、母校に愛着を持ってもらえるような工夫が必要です。

たまたま創立60周年との巡り合わせになりましたが、私も同窓の一人として、また母校の運営の責任者として、同窓生のネットワークづくりに協力いたします。その手始めとして、今年はホームカミングデーを企画・実施する予定です。また、琉大のサテライトキャンパスを設置し、同窓生が気軽に足を運べる空間を用意いたします。多くの同窓の皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

本学の同窓生は、首里・与儀キャンパス世代と西原・上原キャンパス世代に分かれます。それぞれの青春を送ったキャンパスは違えども、琉球大学の同窓であることに変わりはありません。同窓会は単に青春時代を懐かしむための場だけでなく、未来に向かって世代を超えた絆と連携の強化を図るネットワークでもあります。同窓の皆様には、本学の伝統を継承し、明日を担う後輩を引き立てていただきますよう、切にお願いいたします。

本学としても、各界でご活躍されている同窓の皆様のご助言やご支援をいただき、世界を舞台に活躍できるグローバル人材の育成とイノベーションを創出する研究を深化させていく所存です。どうか引き続きご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

おわりに、会員の皆様の固い結束のもと、22世紀に向けて琉球大学同窓会の限りないご発展と琉球大学同窓生の益々のご健勝・ご多幸・ご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会事務局情報

平成25年度定期総会概要

期 日：平成25年7月20日(土)
場 所：パシフィックホテル沖縄
支部長会：午後1時30分～2時50分
定期総会：午後3時～3時50分
シンポジウム：午後4時～6時
懇 親 会：午後6時～8時

平成25年度の定期総会は左記の日程で開催されました。
本年度も、支部長会を皮切りに定期総会、シンポジウム、懇親会と長丁場の催しが続きましたが、関係者の皆様のご協力により全日程を予定どおりに完了することができました。

定期総会には約60人が出席し、平成24年度の事業報告や収支決算、平成25年度の事業計画及び収支予算、並びに副会長の人事案件等全ての議案が原案どおり承認されました。

シンポジウムの後の懇親会にも各方面から多くの会員が参加され、久しぶりに親睦、交流を深めることができました。

また、懇親会では、前川朝文氏（初等教育科・10期）及び島袋君子氏（体育科・20期）を中心とした皆さんによる熟練の伝統芸能が披露され、座に華やかさを添えていただきました。

本年度も若い世代の参加者が少ないように見受けられました。参加者を増やすための効果的な方策に知恵を絞りながら、少しでも琉球大学同窓生の輪を広げていけるよう引き続き努めていきたいと思っております。

平成24年度決算・平成25年度予算概要

平成24年度決算（単位：円）	
(1) 収入総額	21,591,953
(2) 支出総額	10,583,676
①運営費	5,406,058
②事業費	5,163,618
③その他	14,000
(3) 繰越金額	11,008,277

平成25年度予算概要（単位：円）	
(1) 収入総額	23,309,277
(2) 支出総額	12,031,000
①運営費	5,810,000
②事業費	6,020,000
③その他	201,000
(3) 繰越金額	11,278,277

平成25年度事業計画

年 月 日(曜日)		事 業 計 画
平成25年	6月 5日(水)	教員候補者選考試験対策講座（4月17日開講 6月／4回開催）
	6月21日(金)	
	7月11日(木)	評議員会
	7月13日(土)	関西支部総会・懇親会
	7月19日(金)	評議員会
	7月20日(土)	三役会
	7月20日(土)	支部長会・定期総会・シンポジウム・懇親会
7月24日(水)	教員候補者選考試験対策講座（7月／7回開催）	
7月27日(土)	宮古支部総会・懇親会	

年月日(曜日)		事業計画
平成25年	8月 1日(木)	教員候補者選考試験対策講座 (8月/7回開催)
	8月16日(金)	三役会
	8月28日(水)	会報編集委員会
	9月27日(金)	会報編集委員会
	10月10日(木)	関東支部総会・懇親会
	11月 2日(土)	九州・山口支部総会・懇親会
	11月 8日(金)	会報編集委員会
平成26年	11月19日(火)	三役会
	11月27日(水)	久米島支部総会・懇親会
	12月11日(水)	会報編集委員会
	1月17日(金)	会報編集委員会
	2月 8日(土)	三役会
	2月14日(金)	会報編集委員会
	3月 1日(土)	第42回沖縄寮歌・大学の歌祭り
	3月10日(月)	会報第36号発行
	3月20日(木)	琉球大学卒業式出席
	4月 4日(金)	琉球大学入学式出席、合格・入学祝、記念品贈呈、入会金納付案内
4月 9日(水)	「平成26年度教員候補者選考試験」対策講座開講式	
4月11日(金)	三役会	
5月10日(土)	三役会	
5月22日(木)	寄付金(課外活動奨励金)贈呈 琉球大学開学記念日	

平成25年度支部長会

定期総会に先だって例年どおり支部長会が開催されました。

幸喜徳子会長の開会挨拶に続き、高山厚子関東支部長、上地安昭関西支部長、九州・山口支部から上間哲氏(代理出席)、山田和憲奄美支部長、儀間周倫久米島支部長、親泊宗二宮古支部副支部長(当時)の諸氏から、この一年間の各支部の活動状況についての報告がありました。(各支部の活動状況の詳細は12P～15Pをご覧ください。)



地域とともに、地域のために

今日も確実に、安全に。

支部長及び事務局長連絡先

支 部 (会員数)	名 称	氏 名	電話番号	住所・E-メールアドレス
関 東 (590)	支 部 長	高 山 厚 子	03-6226-2200	〒104-0061 東京都中央区銀座4-9-6 陽光銀座三原橋ビル6F (中島信一郎法律事務所内) takayama2002@tgweb.net
	事務局長	宮 城 重 哲	045-904-9071	miyagi1953@ybb.ne.jp
関 西 (150)	支 部 長	上 地 安 昭	078-791-7054	〒651-2102 兵庫県神戸市西区学園東町6-15-6
	事務局長	小 渡 照 生	0729-64-7237	nahatuboya282@yahoo.co.jp
九 州・山 口 (100)	支 部 長	照 屋 常 信	092-725-0617	〒810-0045 福岡県福岡市中央区草香江1-6-29-101
	事務局長	松 下 博 文	090-5479-0268	matushita@chikushi-u.ac.jp
奄 美 (200)	支 部 長	山 田 和 憲	0997-53-8384	〒894-0031 鹿児島県奄美市名瀬金久町22-9
	事務局長	岡 村 誠	0997-54-2030	makototao@fiute.ocn.ne.jp
久米島 (60)	支 部 長	儀 間 周 倫	098-985-8956	〒901-3105 久米島町字宇根54
	事務局長	平 田 光 一	090-782-5663	k-hirata@town.kumejima.okinawa.jp
宮 古 (300)	支 部 長	親 泊 宗 二	0980-72-7324	〒906-0007 宮古島市平良字東仲宗根82-13
	事務局長	下 地 國 雄	0980-73-3313	〒906-0007 宮古島市平良字東仲宗根741-11
八重山 (200)	支 部 長	伊 舎 堂 用 八	0980-82-4238	石垣市登野城156

平成26・27年度の役員選考作業が始まりました

本年度は、2年を任期とする同窓会の役員(会長・副会長5人・評議員50人・監査員3人等)の改選時期に当たります。同窓会の運営に携わる多数の役員を公明・公正かつ透明性をもって選出するために、会長の下に役員選考委員会を設置し、評議員会及び定期総会に提案する役員案の作成を行うこととしています。

役員選考委員会を審議するための評議員会は去る1月14日に開催され、9人から成る役員選考委員会の設置及び委員の構成が承認されました。

委員会は、今後、7回程度の全体会合を開催するほか、必要に応じ正副会長等による協議や役員候補者との面談などを重ねながら最終の全体会合において委員会としての役員候補者案を決定し、委員長から三役会に選考結果を報告することになっています。

役員選考委員会から報告された役員案は、評議員会及び定期総会において審議され、平成26・27年度の役員が選出されることとなります。

同窓会は、本年12月4日に創立60周年を迎えることになっており、多彩な記念事業の実施を予定しております。この節目の時期に役員として同窓会の運営に

携わっていただく方々を求めています。自薦・他薦問わず、事務局へのご連絡をお待ちしています。

第一回委員会は2月26日(水)に開催され、委員長に福里重盛氏、副委員長に名嘉地用輔氏を選出したほか、今後の選考作業方針等を審議しました。

❖ 役員選考委員 ❖

氏 名	卒期	専攻学科等
上 原 政 英	8	畜産
名嘉地 用 輔	12	経済
当 真 邦 子	12	体育
福 里 重 盛	14	化学
玉 城 きみ子	21	初等教育
上 原 正 信	21	農学
米 盛 智恵子	26	養護教育
比 嘉 正 幸	27	短期大学部
蔵 下 要	37	医学

創立60周年記念事業の検討作業スタート！



昭和29年12月4日に琉球大学の第1回及び第2回卒業生146人で発足した琉球大学同窓会は、本年、創立60周年の節目の年を迎えます。

苦難な時代環境の中で同窓会を今日まで発展させてきた先輩諸氏に敬意を払うとともに、同窓会のこれまでの歩みを振り返り、同窓会員でもある大城肇琉球大学長をはじめとする琉球大学役職員の皆さんとの連携を強化しながら、地域への貢献等同窓会のさらなる活動の広がりを模索していく年にしたいと思います。

そのために、今年は同窓会の60周年を祝賀すると

ともに、記念事業の実施を予定しており、「60周年記念事業実行委員会」の設置及び構成が、去る1月14日に開催された評議員会において承認されました。

実行委員会は、記念事業の内容及び経費、実施方法等を検討・審議することとしており、第一回会合は2月25日(火)に開催されました。平成26年度の定期総会において記念事業が決定された後、実施されることとなります。

有意義で盛大な記念事業が実施されるよう、多くの会員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

職名	氏名
委員長	幸喜徳子
副委員長	仲門勇市
総務部会長	親川啓和
祝賀行事部会長	下里義弘
記念誌部会長	儀保博信
芸術部会長	照屋寛八

※各部に部会員を置く(総員約60人)

.....◇◇◇.....

第42回沖縄の寮歌・大学の歌祭りに参加

第42回沖縄の寮歌・大学の歌祭りは、平成26年3月1日に浦添市てだこホール(市民交流室)で開催され、県内外の18大学から約150人が参加しました。

琉球大学からは、沖縄寮歌振興会副会長 上原政英氏を始め15人が参加し、例年のように「逍遙歌」と「雲よ湧け千原の空」の二曲を力強く合唱しました。

本年も、照屋寛八同窓会副会長のアコーディオン伴奏の下、青春時代に戻って皆で明るく合唱し、他大学の皆さんとも交流しながら楽しいひとときを過ごしました。



RYUKYUAWAMORI KUMEJIMA'S KUMESSEN

爽やかに広がる南風の味わい

株式会社 久米島の久米仙 www.k-kumesen.co.jp

本社・工場/沖縄県島尻郡久米島町字江城2157 TEL.098-985-2276(代) 営業本部/沖縄県浦添市港川2丁目3番3号 TEL.098-878-2276(代)

お酒は20歳になってから。妊産婦の飲酒はお控え下さい。お酒は適量に。

「シンポジウム2013」を開催しました



基調報告を行った
内閣府沖縄総合事務局
経済産業部長 能登靖氏

定期総会の後、今年度も広く県民を対象とした「シンポジウム2013」が開催されました。

同窓会のシンポジウムは、「沖縄の将来を担う若者たちに望むこと」をテーマとした平成23年度のパネルディスカッション、「リーダーが語る職業と人生」を

テーマとした平成24年度のシンポジウムに続き今回で三回目、今年度は「沖縄経済の可能性と夢」をテーマとして、沖縄の産業経済の発展のために活躍している方々に貴重なお話しをしていただきました。

基調報告をしていただいた能登靖 内閣府沖縄総合事務局経済産業部長からは、地理的・文化的特性等沖縄の特殊事情についての説明やこれまでの沖縄振興策の成果と今後の課題等についての説明がありました。県内外の事例紹介を挟みながら沖縄の優位性や潜在力を活かした戦略を策定することが重要であること、及びその戦略に沿って各種基盤の整備や投資促



進、新産業の創出、人材の育成・確保といった面での取り組みが必要であるという貴重なお話がありました。

基調報告の後、パネリストによるディスカッションが行われ、県内の産業界で活躍する上地英由氏（沖縄海邦銀行代表取締役頭取）、下地清吉氏（沖縄長生薬草



ピープルズバンク

◎ 沖縄銀行

頭取 玉城 義昭

<http://www.okinawa-bank.co.jp/>

本社代表取締役)、渡口彦則氏(沖縄県高圧ガス保安協会会長)、山内光子氏(服飾デザイナー・(株)マドンナ代表取締役)の4人の方々が、それぞれの立場から沖縄の産業経済の方向性や将来性などについて語りました。

引き続き、山内光子氏がデザインした、沖縄の伝統的な染・織物を使用したかりゆしウエアや珊瑚を原料にした新繊維で作ったウェディングドレスなど、個性

的で華やかな多数のコレクションがファッションショーで紹介され、老若男女約200人の参加者を魅了しました。

ファッションショーの終了後は、会場から熱心な質問もあり、参加者が沖縄の優位性や潜在力に気づかされ、沖縄経済の可能性や沖縄の将来性について認識を新たにしたいときでした。



ファッションショー出演者

シンポジウムの様子



シンポジウム、ファッションショーを終えて



シティーホテルならではの、
ホスピタリティーと快適さがあります。

<http://www.pacifichotel.jp> E-mail gm@pacifichotel.jp

リニューアルオープン



竜潭

ガーデンレストラン

ランチbuffet
ディナーbuffet

 パシフィックホテル沖縄

琉球大学支援事業

琉球大学へ課外活動奨励金を贈呈

平成25年5月27日、幸喜徳子同窓会長他役員が琉球大学を訪れ、大城学長に対し学生の課外活動奨励金として100万円を贈呈しました。

この「課外活動奨励金」は、同窓会が平成元年度から学生の課外活動を奨励するための資金として毎年、琉球大学に寄付を行っているものです。大学によると平成24年度の奨励金は述べ22団体・328人に対し93万円が授与され、学生の勉学以外の活動の奨励に大いに役立っていると感謝の言葉がありました。



幸喜会長(左から2人目)から、大城学長へ贈呈

「平成25年度教員候補者選考試験」対策講座実施結果

同窓会が、在学生及び卒業生の就職活動支援事業として実施している教員候補者選考試験対策講座は、平成25年4月17日に開講し、5人の講師により25回実施されました。本年度の受講者は平成24年度の432人に対し735人と大幅に増加しました。

講座では、一次試験対策として一般教養や教育法規

等の時間が設けられたほか、二次試験対策として教育論文の添削・指導や面接指導、模擬授業の指導が全体講座として実施されました。

また、志願書の書き方や自己アピール文の添削・指導や模擬授業の実践指導等が希望者に対し総合指導・個人指導の形で実施されました。



間 一 仁

平成23年度修了
教育学研究科社会科教育専修

私の合格体験記

私は、教員採用試験(高校地理)を受けるに当たり、次の三つのことを心がけました。

まず一つは、試験当日の生活リズムに身体を慣れさせるよう、勉強を本格的にスタートさせた3月から5時30分起床、22時30分就寝の生活リズムで過ごしたことです。当日は8時30分までに試験会場(豊見城高校)に入室することになっていましたので、うるま市に住む私は、逆算して5時30分に起きることにしていました。

次に、試験の日から逆算し、一日一日のやることを決め(あくまでも目安なので、度々修正することもありました)、それを着実にこなしていくことです。教職教養・一般教養については、同窓会の対策講座はもちろん、東京教友会が出している『ランナー』及び県内の予備校が発行している問題集を使用しました。専門教

合格
体験記

科については、山川出版社の『詳説ノート』及び東京アカデミーの『オープンセサミ』を使用しました。移動の時間があったくないと考えた私は、対策講座の時以外は、基本的に図書館等ではなく家で勉強していました。二次試験については、同窓会の講座で小論文対策の弱さに気づき、予備校の直前講座に通いました。

そして三つ目に、リフレッシュの時間においても、可能な限り試験対策のための時間として有効に活用するという事です。私は読書とランニングが趣味なので、リフレッシュのために毎日それぞれ一時間程度行っていました。読書の時間では、日本史の対策にもなると思い、『日本の時代史シリーズ』吉川弘文館を読み、ランニングにおいては、『聴くだけ世界史』等をMP3プレーヤーで聴きながら走っていました。

最後に、私が合格できたのは、同窓会の『教員採用試験対策講座』で出会った多くの人たちの支えがあったからです。丁寧に指導していただいた先生方や、そこで志を同じくしている仲間と出会えたことは、とても心強い支えとなりました。本当にありがとうございました。

琉球大学同窓会

「平成26年度教員候補者選考試験」対策講座計画表

No.	月/日(曜)	講座の内容	講師氏名	講師略歴	区分
	4/ 9(水)	開講式			一次試験対策
1	4/ 9(水)	教員に求められるもの(選考の視点)	津留 健二	元県教育長	
2	4/16(水)	志願書の記入添削と指導	神元 正勝	元高校長	
3	4/23(水)	学習指導要領概説Ⅰ(小中学校)	長浜 勝廣	元中学校長	
4	4/30(水)	学習指導要領概説Ⅱ(高等学校)	上江洲公志	元高校長	
5	5/ 7(水)	一般教養Ⅰ・練習問題	上江洲公志	元高校長	
6	5/14(水)	一般教養Ⅱ・練習問題			
7	5/21(水)	一般教養Ⅲ・琉球歴史Ⅰ・練習問題	比屋根為勝	元小学校長	
8	5/28(水)	一般教養Ⅳ・琉球歴史Ⅱ・練習問題			
9	6/ 4(水)	教育法規Ⅰ・概要と体系・練習問題	仲里 一彦	元高校長	
10	6/11(水)	教育法規Ⅱ・教育基本法			
11	6/18(水)	教育法規Ⅲ・教育法規練習問題			
12	6/25(水)	教育法規Ⅳ・教員の服務			
13	7/ 2(水)	教育法規Ⅴ・教育法規練習問題			
14	7/30(水)	自己アピール文の作成と指導	神元 正勝	元高校長	二次試験対策
15	7/31(木)	教育論文の書き方			
16	8/ 1(金)	教育論文の作成と添削指導			
17	8/ 4(月)	学習指導案の作成と添削指導			
18	8/ 5(火)	模擬授業の仕方と実践			
19	8/ 6(水)	模擬授業の仕方と実践	津留 健二	元県教育長	
20	8/ 7(木)	個人面接の傾向と対策			
21	8/ 8(金)	英文自己紹介文作成と面接	上江洲公志	元高校長	
			仲里 一彦	元高校長	
		《総合指導・個人指導》			総合・個人指導
22	8/11(月)	教育論文の作成と添削指導	神元 正勝 他		
23	8/12(火)	自己アピール文の作成と添削指導	上江洲公志 他		
24	8/13(水)	英文自己アピール文と面接指導	神元 正勝 他		
25	8/14(木)	学習指導案の作成と添削指導			
26	8/15(金)	模擬授業の実践指導			

【時間】毎回18:00~19:30 【場所】琉球大学50周年記念館多目的室A・B

【連絡・問合せ先】〒903-0213 西原町字千原1番地 琉球大学同窓会(事務局長 比嘉忠信)

電話:098-895-8039/FAX:098-895-8163 Eメール:r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

支部活動報告

関東支部

支部長 高山厚子

第20回総会は、琉球大学側からは大城肇副学長、同窓会本部より幸喜徳子会長と副会長がご出席いただき、同窓生併せて70名ほどの参加があり大変盛り上がりました。特に今年は、隔年ごとに開催される機械工学科の学科総会や琉大メッツ(野球サークル)などのサークルの関係者も集まり、近年では最高の盛り上がりとなりました。

総会後は懇親会に移り、出席者全員の近況報告が行われ各人の各界での活躍が披露され、改めて同窓生の社会的貢献度の高さが確認できました。

エンターテインメントは、昨年に引き続き本村陽一氏のオペラや例年通り「クイチャーパラダイス」(主宰:仲本光正氏)の沖縄民謡と舞踊で会場は大いに盛り上がりを見せました。今年も「久米島の久米仙」から美味しい泡盛が毎年提供され同窓生は舌鼓を打っていました。

来年からは総会開催時間を12時とし、その後各学科やサークル、友人らが2次会を持てるよう配慮することとしました。



総会・懇親会(平成25年10月19日 日本教育会館9F「喜山」)



関西支部

支部長 上地安昭

関西支部の2013年一年間の活動を報告いたします。支部の活動と言いましても、年に一度の「支部総会」と「秋の親睦昼食会」が主で、それを支える「役員会」が年に2～3度持たれ、あとは総会の時期をめぐりに「支部会報」を発行しております。

2013年の支部総会は、例年にならい7月の第二土

曜日(7月13日)に、大阪市大正区の沖縄料理の店「おもろ」にて午後6時から開催されました。来賓として外間登美子副学長とともに砂川義則総務課長代理が随行され、同窓会本部から幸喜徳子会長と照屋寛八副会長のご臨席をたまわりました。今回も新しい会員の参加はなかったものの家族的な雰囲気のもとで盛大に開かれました。支部会員24名の出席予定が、当日2名の欠席で参加人数が減ってしまったことは残念ではありません。ひと昔前に比べて参加者の平均年齢もしだいに上がっていき、新しい若い会員を同窓会にいか呼び込むかが今後の課題となっています。

秋の親睦昼食会は、例年11月23日の祝日に催されるのですが、今回は諸般の事情で一週間遅れの12月1日(日)に、琵琶湖湖畔にある「休暇村・近江八幡」で実施されました。この催しは会員以外の家族参加も認めており、子どもを入れた家族1組、夫婦・友人のペア3



秋の親睦会(平成25年12月1日 琵琶湖湖畔)



総会・懇親会(平成25年7月13日 「おもろ」)

組を含め21人が参加しました。(ちなみに26人の参加者があった前回は6組の夫婦が参加しております)昼食会は今回で17回目を迎えたのですが、総会同様回を重ねるにしたがって(総会は24回目)参加者の顔ぶれが似てきます。これも固定化をどう打破するかが今後の課題です。でも、今回はうれしいことに若い新顔が一人新たに参加してくれました。これを機に課題解決の一步を踏み出そうと考えています。

実は、課題解決の取り組みは他にも動いており、同



九州・山口支部

九州・山口支部においては、第12回定時総会・懇親会を、平成25年11月2日、福岡市内の琉球料理の店「旅人」において開催いたしました。

当定時総会には、出張先からのお疲れも見せず、琉球大学から大城肇学長と秘書系の坂口あゆみさんの、同窓会本部からは照屋寛八副会長のご臨席を賜り、また、例年のことながら、遠くは鹿児島県、長崎県、山口県からの参加者もあって、予定会場が満席となる盛大で和やかな支部総会となりました。

恒例となりました会員による総会冒頭のミニ講演会は、平成24年7月に発生した九州北部豪雨災害の復旧・復興作業を直接担当しておられる日田市役所職員の梅山武彦氏(1975年入学、農学部)をお願いいたしました。同氏の資料に基づきながらの講演に、自然災害の脅威、その復旧・復興事業の困難さに理解を深めることができました。

講演会終了後、予定の総会議事に引き続き懇親会となりましたが、大城学長から最近の大学事情、及びこれからの抱負・展望に触れられたごあいさつ、同窓会本部照屋副会長から最近における同窓会本部の活動状況及び同窓会支部に寄せる期待等についてのごあいさつ(なお、愛用のハーモニカによる琉大逍遥歌演奏のアトラクション付き)に同窓生として熱い共感を

窓会本部と連携して関西一円に住む同窓会員の動静を把握する作業を進めています。互いの名簿を精査することで、支部会員の拡大と若返りをはかろうと考えています。また、関西には沖縄県出身の教師及び教育関係者を中心とした「南友会」という組織があり、そことの連携も進めています。さらに県人会との連携を深めて同窓会活動に新風を吹き込めないものかと模索しています。今までに連携がなかったわけではなく、かつては琉大開学60周年記念事業「大阪シンポジウム&交流会」のチケット販売や、関西支部結成20周年記念総会への協力などがあり、2013年は県人会活動の本拠地「沖縄会館」(大正区)の改修工事に支部としてわずかばかりの寄付をいたしました。

さて、『支部会報』6号は予定どおり4名の編集委員の手によって完成しました。前回同様手作りです。今回は表紙を自前の写真で飾ることができず、中城村役場から中城城跡の写真を提供してもらいました。会報編集委員会はいま7号の準備に動き出したところです。

支部長 照屋常信



総会・懇親会(平成25年11月2日 「旅人」)

覚えたものでした。

大城学長や同窓会本部からお土産として頂いた本場泡盛の心地よい喉越しを感じながら懇親会は進み、会員一人ひとりの自己紹介と近況報告のステージへと移りましたが、同窓生は実に多士済々、年々、海外を含め社会の広い分野に浸透し活躍している様子が窺え大変頼もしく感じられました。

団欒のうちに予定時間は瞬間に過ぎ、最後に、これまで毎年福岡市で開催してきた総会を、次年度は、多数の同窓生がおられる大分県日田市において平成26年11月8日(土)に開催することを満場一致で決定し散会となりました。次年度総会を今から楽しみにしています。

奄美支部

大城肇学長が平成25年9月13日に市内の高校へ訪問のため来島した折、琉球大学同窓会奄美支部では、歓迎の宴と学長就任お祝いを、関係団体への声掛けを行い市内のホテルで催しました。

本来なら当支部がお招きをしなければならぬところ公務出張に便乗してしまいました。

大城学長は、ご本人の専門から長年奄美市及び奄美



歓迎の宴(平成25年9月13日)

支部長 山田和憲

群島との関わり合いが深く、これまで奄美市の審議会会長や広域行政の委員をされるなどしており、当支部の呼び掛けには朝山奄美市長、伊喜県大島支庁長をはじめ関係する奄美市、広域事務組合の職員が参加し賑やかな懇談会となりました。

また県立大島高校(因みに春の選抜高校野球初出場21世紀枠)屋村校長が参加、かつては同校から毎年二けたを超える入学者がおりましたが、近年琉球大学への進学希望者が少なく、是非優秀な学生をもっと多く送り出してほしい旨、同校OBが大半を占める支部としてもお願いしたところです。

今後とも、大城学長と奄美、また琉球大学と奄美とのかわり、絆が深まりますよう祈念してお開きとなりました。

つづきは2次会に持越し、無礼講で奄美の夜を楽しんでいただきました。

久米島支部

「学びの大切さを子どもたちへ伝えよう」

久米島は、豊かな自然(緑、水、海)に囲まれた「豊麗のしま」で、周辺地域が県立自然公園に指定されています。昨年の長い干ばつでダムの水水位が低下し、8月下旬から節水を余儀なくされ、基幹作物のサトウキビもかなりの被害を被り収穫量の減少が危惧されています。

さて、このような環境の変化にも負けず、久米島支部では会員の親睦、組織の強化、琉大合格者の激励、外国人留学生(今年度8名、中国、台湾、韓国、ネパール、ハワイ、インドネシア、ベルギー)のホームステイ等、年間を通し幅広く活動してきました。

今年度も、11月27日に支部総会を開催し、大城肇学長、比嘉忠信同窓会事務局長、池原清子さん(琉大職員)が出席されました。

大城学長のあいさつより、琉球大学のサテライトキャンパスを離島へ開設し、多くの社会人、地域の方々へ大学の学びを伝え、島興しの一助にしたいとお話いただきました。このことは久米島の未来を創造し、島の小学生、中学生、高校生たちに大学の学び、専門分野の知識の大事さを伝え、向学心、目的意識を高め、次世代の担い手として逞しく成長する人材の育成へと繋ぐことができます。私たちが支援者となり、同窓会活動の一環として取組んでいきたいと思えます。

総会終了後、かぎやで風、笛、三線の演奏等で会場を

支部長 儀間周倫



総会・懇親会(平成25年11月27日「花久米」)

盛り上げて頂きました皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

以下に久米島支部の活動計画を紹介いたします。

平成25年10月～平成26年9月

- ① 役員会(適時)
- ② 支部総会 11月27日
- ③ 本部定期総会参加
- ④ 新会員歓迎、激励
- ⑤ 学校、関係団体との連携
- ⑥ 親睦レクリエーション
- ⑦ 琉大合格者、在学生激励
- ⑧ 留学生ホームステイ受け入れ
- ⑨ その他

宮古支部

支部長 親泊宗二

2013年度の宮古支部の定期総会は7月27日(土)午後4時から市内のレストラン「クール」で開催し、大城肇学長や同窓会から儀保博信副会長が出席されました。

● 具体的活動状況 ●

1. 会員相互の親睦について

5月18日(土)グラウンドゴルフ大会と懇親会。参加者(G・G11名 懇親会8名)は少なかったですが同窓会活動に対する熱い想いが語られ、とても有意義な大会・懇親会となりました。

2. 琉球大学との連携強化について

総会終了後の懇親会で学長、本部同窓会役員と支部会員が膝を交えて親しく懇談しました。琉球大学が国内はもとより国際的にも大きな成果を挙げられるよう熱い思いが語られました。あわせて琉大同窓会活



定期総会・懇親会(平成25年7月27日 「クール」)

動が、ますます発展するようにと多いに盛り上がりました。

琉球大学医学部保健学科主催の「宮古島における健康まちづくり」「知っておきたい排尿ケア講座」の講演活動をしました。

3. 地域における活動について

宮古支部の総会では、従来、琉球大学の教授を招聘して、最近の話題について講演をお願いしてきまし

た。講演会は市民にも参加を呼びかけました。しかし、支部には地域で重要な役割を果たしている会員がいます。

今年の総会では、農学部畜産学科17期生の長浜幸男氏が「宮古馬のルーツについて ①日本在来馬渡来経路を探るための全国的な視点②琉球王府を支え大貿易時代の基礎を築いた王府の視点③優良馬を生産した百姓の視点」を講演しました。

4. 地域におけるボランティア活動について

A. 「昔の子供の遊び」の実技指導を市立東小学校1年生60名を対象に行いました。

①アダンの葉で風車を作る

②けん玉、コマで遊ぶ

講師：下地國雄・親泊宗二 教師4人

B. 「木工教室」来間小中学校6人 教師5人

①獅子頭づくり 中学生3人

②動物の切り抜き 小学生3人

講師：下地國雄 会員2人

C. けん玉教室 平良児童館10人 職員2人

D. シーシャ頭作り 西辺公民館

小中学生11人 父母4人 会員4人

子供教室(シーシャ作り)
来間小中学校



けん玉教室 平良児童館

同窓会では、地域毎に置かれている各支部のほか、以下の学部・学科同窓会が定期総会・懇親会を開催し、多くの会員が久しぶりの交流を楽しみました。

学部・学科同窓会情報

- 医学部医学科同窓会定期総会・懇親会(本部から仲門勇市副会長が出席)

平成25年7月14日(日)／ラグナガーデンホテル

- 商学経営学友会定期総会・懇親会(本部から儀保博信副会長・比嘉忠信事務局長が出席)

平成25年10月23日(水)／ザ・ナハテラス

Interview

琉球大学卒業後、各方面でご活躍の同窓生を紹介します。

今回は、伊江村長・島袋秀幸氏、国頭村奥の元区長・島田隆久氏、東京オリンピックで聖火リレー第一走者を務めた・宮城勇氏に学生時代の思い出や、卒業後の活動状況など振り返っていただきました。



伊江村長
島袋 秀幸
1976年卒 24期
法文学部 経済学科 経済専攻

■ 学生時代の思い出

私が入学した1972(昭和47)年は、その年の5月15日に沖縄が日本へ復帰した年で、沖縄の政治・経済の社会状況は大きな過渡期を迎えた時代だと思います。

大学も国立大学へ移行したため、在学中は県外からの入学が段々と増えた時期でした。

学生としては、一応それなりに勉学に励み、それなりに学園生活を楽しむ一般的な学生で、サークルなどにも入らず当時の言葉での「ノンポリ」を地で行くような学生だったと思います。

在学中に数多く行われる各サークルのダンスパーティに一度も行ったことのない学生で、そこに行くのは軟弱者だと言いながら、男同士で酒を飲む不届きぶりで、当然恋愛にはほど遠く、今振り返ると青春時代をもっと若者らしく謳歌すればよかったと内心忸怩たる思いを強くしています。

■ 卒業後の職歴・活動等

琉大を卒業した昭和51年は、県民が大きな期待を寄せていた沖縄海洋博覧会の後遺症で県内景気が悪化し、雇用情勢も海洋博の反動もあり企業が採用を手

控えるなど一段と厳しい時代でした。専攻が経済学であり、入学当初から県内の金融機関で働きたいと思っていて、首尾よく県内銀行に就職内定していましたが、健康を損ない、入行することができず、健康回復と捲土重来を期し故郷に帰り役場に入りました。振り返るとそれが村長就任の第一歩だったように思います。「人間万事塞翁が馬」の故事を改めて感じている次第です。

■ 伊江村長になってから

本村は、従来、農漁業を核とした村づくりを進め、近年は伊江島マラソン、伊江島ゆり祭りなど行政主導のイベントによる誘客や地域活性化に向け取り組んでいます。平成15年には県外中学・高校生を対象とした「民家宿泊体験事業(民泊事業)」を県内で最初に村観光協会が受け入れをスタートし、今では5万人を越え、村観光を牽引する原動力となっています。今後も農漁業を基軸にそれと連携した観光産業の振興を推進し、村民の豊かな暮らしを支える産業の育成・雇用の確保に努めます。さらには住民が島で安心安全に生活し定住を図る上で最も重要な案件である医療の充実・確保に向け、村営診療所に併設する予定の人工透析診療施設の建設に着工しました。工事も順調に進捗しており、来る5月の開業を目指して取り組んでいます。また、今年度より運営を始めた直営の堆肥センターも順調に堆肥の製造・販売を行っており、本村農業の持続的発展と循環型農業の確立に向け安定供給と健全運営に努めてまいります。本村は村土の約35%が米軍施設用地であり、それとの調整を図りながら、村民のニーズに的確、迅速に対応し、村民参画の協同の村づくりを基本方針に、山積する村振興のための諸課題を解決してまいります。「健康で明るく、互いに支えあい、誇りを持って豊かな気持ちで暮らし続けられる村」をめざして、明るい未来に向けこれまでの村のあゆみを礎として、村勢の伸長、発展に職員とともに粉骨砕身、全力を傾注し取り組んでまいります。

■ 後輩のみなさんへ

「後生畏るべし」多くの後輩が各分野で活躍することを期待したいと思います。



国頭村 元奥区長
島田 隆久
1960年卒 8期
農家政工学部 農学科

■ 学生時代の思い出

入学時、琉球大学が首里のどこにあるのかさっぱりわからない田舎者だったので、親戚の方に案内され遠くから琉大が見える場所まで来てはじめて琉大のある場所を知った。

1年次は寮で食事を取り、宿泊は個人の家を借りた。2、3年次は寮に入り1室6名の仲間と楽しい生活を送った。2～4年次までの3年間は「僻地教員養成奨学資金」を受給し、どうにか学生生活を終了することができた。その当時は多くの学生が奨学資金の恩恵を受けられるというありがたい制度であった。

農家政工学部は農村文化向上のための映学会等を休日を利用して催した。担当係官から頼まれ、よくアルバイトもした。沖縄本島各地はもちろん各離島、遠くは石垣島、与那国までも行き、アルバイトと旅行を兼ね大変勉強になった。それらの旅行のおかげで各地の農村風景、地質や土壌の姿を知り生きた学問を得たことは今でも強く刻まれている。

■ 琉大を卒業して

まず、奨学資金を受給した3年間、国頭村の中でも僻地の代表格である楚洲小中学校に勤めた。当時その学校は70名余の生徒がいて複式学級であった。楚洲、伊江、我地という小さな3つの村から生徒が集まり学校を形成していた。私は「我地(がじ)」という小さな村の係になり子どもたちと親しんだ。学校～我地村間の山道は人一人通れるほどの小道であり、大雨が降り大水になった際は私の宿に子どもたちを泊めてその際の食事は私が提供した。

3か年の任務を果たしてもう一度琉大に戻った。農学部研究生という身分で再度勉学に親しんだ。研究生終了の間際、石垣島のあるパイン会社から入社勧めがあり、そこに入社して15年ほど勤務した。3か年の公務員時代とは異なり、会社生活は大変活発で楽しい日々であった。

石垣時代は、琉大の支部係的な役目を果たした。例

えば1965年度の琉大の入学試験用紙はわが社の車で、空港から八重山警察署へ運び保管してもらった。当時は、日本本土から琉大に多くの招聘教授が来られた。これらの先生方が(特に農学部)石垣島に来られる際には全て私が案内役となり対応した。北海道大学からおいでになったある先生の「島田君、石垣島は人だけでなく犬や猫もゆつくり歩いているねえ」という言葉には全く驚いた思い出がある。会社在职中は、台湾、タイ、スリランカ、ハワイ(東西文化センター)などでパインの調査研究に従事した。ある意味では産業スパイ的仕事もした。

■ 石垣島を離れて

現在ではほとんど無くなったが、復帰以前まで各地でパイン産業が活発であった。那覇市の本社に席を置き、久米島や本部、大宜味、国頭村でパイン産業の普及に従事した。

■ 故郷 奥に帰って

中学時代まで育った故郷は素晴らしい村であった。以前、東南アジアやハワイから絶えず望遠鏡で眺めていた故郷は昔を偲びながら味わい深いものが多々ある。

奥に来てまず手がけたのが村での花づくり運動であった。それが「鯉のぼり祭り」へと発展した。現在では小さい村の大きな祭りになり、多くの人々が春の連休に奥に来るようになった。

また現在では、近い将来絶滅するであろうウクムニー(奥方言)を残すため、奥の先輩方、琉大と組んでウクムニーの保存調査をしている。奥村はその昔から与論に近いことから多くの交流があった。例えばトーグラ(台所)という方言は奄美から与論までであるが、沖縄本島は奥村だけである。つまり交流の痕跡が方言の中に残されている。

**信頼ある高い技術力と実績で
安全快適な環境創りをサポートします！**



株式会社 沖縄ダイケン

代表取締役社長 **金城 秀雄**

ホームページは



東京オリンピック
聖火リレー第一走者
宮城 勇

1965年卒 13期
教育学部 体育学科

1961年、憧れであった琉球大学の新生となった。中・高校時代、「陸上競技」に強い思い入れを持っていたので、入学と同時に即入部した。「記念グラウンド」は小石が多く、スパイクがすぐにガタガタになる未整備の走路ではあったが、玉那覇君(故人)らと一所懸命モモ上げやスタートダッシュに勤しんだ記憶が鮮明だ。今思い返しても、よくやったな、と感心するほど連日我を忘れて走っていた。

「陸上は無理」と悟ったのは1年次も終わる頃か。ただ青春を賭けて一つの競技に没頭した満足感のせいかな、辞めるとき不思議なくらい未練を感じなかった。友人の比嘉一信君の勧めもあり、2年次からは一転、剣道にまい進することに。優れた先輩、同輩諸氏に恵まれ、初めて手にする竹刀であったが、腕前は自他ともに驚くほど上達していった。いつだったか比嘉先生から「昇段の早さ」を褒めてもらい、望外の喜びを感じたものである。

先生方は小橋川寛主任教授をはじめ比嘉徳政、大城実、新里紹正、外間政太郎、宮城勇等と个性的で多士済々の教授陣であった。在学中は無論、卒業後も多大の教えを請い影響を受けた。いまや上記の先生方すべてが鬼籍に入られてしまった。

故平良勉先生の水泳の授業がある水曜日は、朝から体調不良になり、昼食の弁当が喉を通らなかった。与那原の海岸に出かけ、自作のビート板につかまり、必死になってクロールの習得に励んだ記憶が懐かしい。61472、学生番号は今でも即座にそらんじることができる。思い出多い学生時代の証左であろうか。

東京オリンピック

聖火ランナーとしての印象に残る出来事、思い出

アジアで、そして日本で初めて開催された東京オリンピック。新聞の報道と指導教官の知らせで、大会の象徴である聖火リレー日本第一走者に選ばれたことを知った。1964年6月11日のことだった。22歳を迎えたばかりで、沖縄が祖国復帰する数年前の出来事である。当時私は大学4年生。教育実習や教員採用試験等の準備に明け暮れていた。降って湧いた「第一走者

決定」の事件(?)は、文字通り青天の霹靂となった。

空路途中、聖火は台風の影響を受け1日遅れの9月7日に到着した。那覇空港は灼熱の太陽と真っ青な大空が広がっていた。万余の観衆が見守る中、当間重剛実行委員長からトーチが手渡された。遠くギリシアから運ばれた聖なる火を掲げた瞬間、全身が紅く染まっていく感覚に捉われた。

沿道は予想をはるかに超える人波で埋まり、聖火は過去に見たこともない数の日章旗と大歓声の中を分け走る格好でスタートした。約1.7キロ、予定時間9分を少しオーバーしたが100,713人が参加した聖火リレー・第一走者の役目は無事果たすことができた。

およそ50年前の出来事であるが、私にとって人生の大きな転機となった記念の日でもある。五輪が縁で数えきれないほど多くの方々に会い、お世話になった。「聖火第一走者」は正に「身に余る光栄」であったし、その気持ちは終生胸の奥で燃え続けるに違いない、と確信している。

終戦から19年、国民待望の東京五輪は新生日本の幕開けとなった。オリンピックファンファーレは、新時代の幕開けを祝福する壮大な序曲を思わせる調べとなり、日本中が果てしなく輝く未来を夢見た年でもあった。

2020年の東京五輪は再び日本の、いや世界の新たなスポーツや社会を導く起爆剤になって欲しい。かつて「世紀に一度の祭典」といわれた五輪が、再び東京で、57年ぶりに実現できる幸運に恵まれたのだから。

■ 現在の主な活動

2011年3月末に沖縄国際大学を定年退職した。高校7年、大学39年の教職を一応大過なく終えることができ、「ほぼ満足」の自己評価である。

退職後、ロードバイク(自転車)に凝って週2、3回走っている。昨年4月には台湾に遠征し、2日で365キロを走る大会「環花東365超級挑戦隊」にも参加できるようになった。高めのサドルに身を置いて、北部路を走る快感は筆舌に尽くし難い。一瞬一瞬、眼前に迫る景色の変化と空気の流れは格別である。今暫くはバイクにハマってみるつもりでいる。

在任中、機会があれば「勤勉、感謝、誠実」を口にしてきたが、当人は?と問われると胸を張る自信がない。いまは46年間に会ったすべての方々から心からの謝意を表したい思いで一杯である。



農学部
亜熱帯地域農学科教授
仲間 勇 栄
1975年卒 23期
農学部 林学科

宮古の「オトリー」教育論

私は学部生や院生が自分の研究室に配属されてくると、酒の飲み方の入門として、故郷の宮古島の「オトリー」の歴史やその実践方法を、最初に教えることにしている。なぜ宮古島の「オトリー」なのか。人によっては、「オトリー」を酒の一気に飲みで野蛮チック、と言うかも知れない。しかし「オトリー」には、その経験を積むことで、コミュニケーション能力や論理思考を高める効用の面もある。

「オトリー」は、『琉球国由来記』（1713）などによれば、「御通り」・「大通」と表記され、正月元旦に首里城正殿前の御庭（ウナー）で、国王から御酒を賜る儀式に由来している。この儀式を当時の宮古の役人がみて、真似たのが宮古の「オトリー」の起源であろう。「御通り」＝「オトリー」の類似性も、その根拠の1つといえる。「オトリー」は当初、宮古の士族の間で行われていたのが、後に一般庶民の間にも広まっていった、と考えている。

宮古の「オトリー」の特徴は、お酒を回す前後の口上の述べ方にある。まず「オトリー」を回したい人は、最初に「オトリー」専用の盃に酒を入れて掲げながら、「オトリー」を回したい旨を皆に告げ、その意義と目的を述べて、その盃の酒を一気に飲み干す。そのときの内容が夢を語る話でないと、誰もその「オトリー」を喜

んで飲まない。また、この意義と目的の話に、人をうならせるウイットが効いているか、それによって、回す人の「オトリー」の階級が決まる。無事に最初の口上をクリアすると、次に盃に注いで1人1人回し飲みさせていく。居合わせた人すべてに回し終えた後で、「オトリー」の閉めの言葉を述べ、最後の盃の酒を飲み干して、「オトリー」のワンラウンドが完結する。一度「オトリー」が始まると、盃は次の回す人にリレーされ、全員が回し終えるまで行われるのが普通である。

この宮古の「オトリー」の回し方は、私流に解釈すれば、その口上の展開の仕方が、論理的になっている点にある。その口上の流れには起承転結があつて、まさに論文を書くときの論理展開と同じであると、学生には教えている。無口で人前で話すことが苦手な学生が、「オトリー」の経験を積むことで、物怖じせず、人前で堂々と論理思考で話すようになる。口で百回説くよりも、1回の「オトリー」の方が、学生への教育効果は高い。

沖縄を緑の島に 緑と花で心に安らぎを!

OKINAWA
KAIHO 海邦銀行

代表取締役頭取 上地 英由

おいしい幸せ オキコ

<http://www.okiko.net>

琉大生はどこから集い、どこへ羽ばたいていくのか



前 泊 美 紀

1996年卒 44期
法文学部 法政学科

琉球大学同窓会は今年、60年を迎えます。その節目を前に、琉大生はどこから集い、どこへ羽ばたいていくのか調べてみました。

● 入学状況

琉球大学の平成25年度学部入学者は1,635人。県内・県外の内訳は、県内1,117人、県外497人で、およそ7対3の割合です。また、県外の地域別では、九州が192人と多数を占めています。

大学によりますと、この「7対3」の割合の傾向は長年変わっておらず、「6対4になった時期もあるが、それはバブル経済と言われた頃。経済情勢にも左右される」とのことで、社会状況の影響も受けるようです。

● 留学生

琉球大学では、49カ国・地域から283人の留学生を受け入れています(平成25年5月1日現在)。アジア、米国そしてヨーロッパ、アフリカと、世界各地から集まった留学生が、日本人学生とともに学び、交流を深めています。受入れ国・地域ベスト5は、1位中国(90人)、2位韓国(31人)、3位インドネシア(25人)、4位台湾(18人)、5位ベトナム(12人)。グローバルな学風は、琉大の特色のひとつです。

● 進路状況

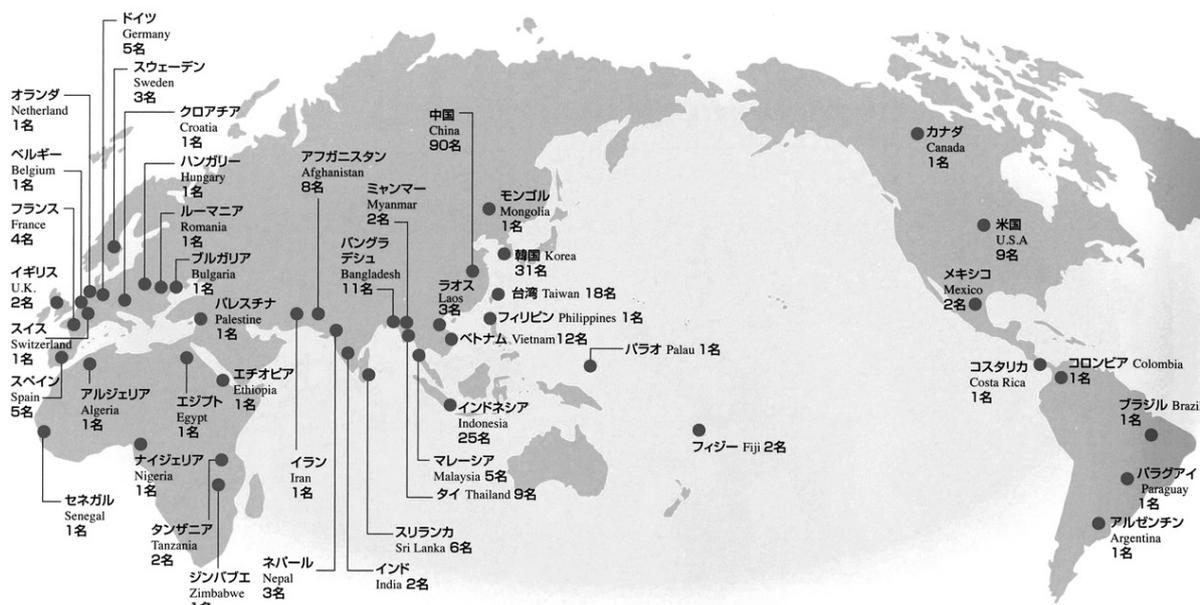
平成24年度の卒業者は1,347人で、就職希望者の就職率は87.0%です(進学率17.7%、未就職を含むその他27.5%)。

とかく沖縄の学生は「県内志向」「公務員志向」と言われますが、就職者の内、県内就職者は59.0%と、県外出身学生を考慮しても比較的高くなっています。また、教員を含む公務員は13.8%で、民間就職者の41.0%と比べて高くはありません。就職・採用活動時期の設定や経済状況にも影響を受けるので、大学と社会が一体となった取り組みが必要です。

国際交流 International Exchange

■ 国・地域別留学生数 International Students by Nationality

(2013年5月1日現在)



出典:「平成25年度 琉球大学概要2013」「琉球大学就職課作成資料」

サークル活動紹介

西日本医学科生体育大会優勝

(医学部女子バスケット部)

医学部バスケットボール部は、男女で活動しており、その中で女子部はプレイヤー10人、マネージャー3人の計13人で活動しています。練習は火、木、土の週に3回で、木曜日と土曜日は男女合同で練習しています。部活の運営は学生が主体となって行い、学生リーグ、九州山口医学科生体育大会、西日本医学科生体育大会などの大会に参加しています。また、年間行事には琉大祭、忘年会ペンション、送鳳会、留送会などがあり、部員同士、または部員と顧問やOB・OGとの交流も深めています。バスケットだけではなく、日々の活動を通して一団体のメンバーとしての個々の社会性の獲得も目的としています。

私達女子バスケットボール部は、前年度の西日本医学科生体育大会での3位入賞をきっかけとして、チームに勢いをつけることができ、今年度の九州山口医学科生体育大会では3位入賞をはたしました。そして、8月8日～10日に福岡で行われた西日本医学科生体育大

会ではついに優勝を果たすことができました。チーム全員が一つの目標にむかって最大限の努力をかさねてきた結果だと思えます。

10月から新しいシーズンが始まり、新キャプテンのもと今シーズンも日々練習に励んでいます。今年の目標は逃してしまった「九山」の優勝と「西医体」の連覇です。チーム一丸となり、頑張っていきたいと思えます。これからも応援よろしくお願ひします。



西日本医学科生体育大会で優勝した医学部女子バスケット部 (2013年8月10日)

..... ◆ ◆ ◆

51年前の卒業式(表紙写真説明)

上原 健一

1963年卒 11期 文理学部 商学科



51年前の卒業式の写真が懐かしい。写真の中の20代の自分と70代の現在の姿を見比べると、唐時代の張九齡の五言絶句「鏡を照らして白髪を見る」の前半の次の二句が頭に浮かんでくる。

しゆくせき
「宿昔 青雲の志 蹉蛇たり白髪之年」

1963年の琉球大学では、乗用車は数台で、車通勤の先生方も限られていた。車を利用する学生は皆無で、現在の琉球大学の車の台数を見ると隔世の感がある。そんな中で全琉から入学してきた学生は、ほとんどアルバイトをしながら学生生活を送っており、小生も2年次から家庭教師のアルバイトをしながら学業を続けた。寮生活に憧れていたが、那覇市から通学していたので入寮が許可されず、4年次に級友と二人で博物館の近くに六畳一間を借り、食事は寮の食堂でとることができるようになった。当時の学長であった与那嶺松助先生の話の中に、「青春の最も貴重な時期である学生生活を実り豊かなものにするように」というのがあり、授業終了後は図書館に籠もり、夕食を寮の食堂で済ますと図書館に戻って閉館まで過ごすという大

変恵まれた大学生生活であった。

商学科の授業も外間、島村、仲地、三浦、仲宗根諸先生方に恵まれ、毎時間テストの連続で大変鍛えられたことが懐かしく思い出される。

那覇近郊に住んでいる同期生で30年余「六三志会」という親睦模合を月1回続けている。最近健康と孫の話が多くなってきた。小生は30年余、生涯学習の一環として吟友を集めて詩吟を続けている。古典である漢詩・和歌・俳句を腹の底から大きな声で吟ずることが健康増強につながり、また、先哲の漢詩・和歌を学習する素晴らしい時間を過ごしている。大きくは全国大会、小さくは地域の公民館祭りで発表している。

最後に、後輩達に宋の時代の朱熹の五言古詩「勸学の文」を送りたい。

謂ふ勿れ
今日学ばずとも来日有り
謂ふ勿れ
今年学ばずとも来年有り
今日学ばずとも来日有り
謂ふ勿れ
今日学ばずとも来日有り
謂ふ勿れ
今年学ばずとも来年有り
今日学ばずとも来日有り
謂ふ勿れ
今日学ばずとも来日有り
謂ふ勿れ
今年学ばずとも来年有り
今日学ばずとも来日有り

【短歌の部】

亡き父の 使ひ古しの農事暦
にはか百姓の 我ら導く

秋霖の 畑をふんはり潤して

すず菜・すずしろ 発芽を競ふ

(金城 芳子)

基地のこと 知らぬがごとく名護浦の

波はゆつたり 春を迎ふる

窓いっぱい 開けば入りくる春の風

籠るわがうつ 飛ばしくれたり

(山田 恵子)

初泳ぎ クロール力泳しぶきあげ

目指すは彼方 白寿の岸ぞ

嘉津宇岳の 秋空たかく渦描き

アカハラダカは 南の旅へ

(並里 明達)

【俳句の部】

おぼろ夜や

野良着のままの 牛談義

せり牛の

頭絡みじか 夏の果

(渡久山ヤス子)

夏の夜の

親子語りの 海の声

ブーゲンビリア

海の香りに そまるなり

熱帯夜

遠き想いの ふるさに

(仲門 勇市)

【川柳の部】

「美ら・チュラ」の
冠が多い
基地の島

基地の島

ババ抜きで

初から基地を

持たされて

青春は

終わつたけれど

今・生句

(比嘉 忠信)

嫁ほめて

妻が膨れる

俺縮む

ノーベル賞

ぼくのジージは

ノンデル賞

人間ドック

その後三日は

ウォーキング

(儀保 博信)

オスプレイ

ウチナー空手で

押忍無礼

孫立つぞ

千鳥足じいじ

酒絶つぞ

(大兼 一夫)

龍樋書道展 開催

龍樋硯心会は1967(昭和42)年、「書の芸術的探求と会員相互の親睦を図り、沖縄文化の発展に貢献する」ということを目的として、琉球大学書道クラブとそのOBで結成され、現在、国内書道展で活躍する書家が数多く誕生している書道団体です。琉球大学が首里城跡に設置されていた当時、首里城の龍樋の水で墨をすっていたことから「硯の心」という言葉を合わせ「龍樋硯心会」と命名しました。しかし首里から千原にキャンパスを移転した2000年頃から書道クラブ員が減り始め、2003年頃にはクラブが途絶えてしまい

ました。そこで龍樋硯心会は、会の目的の達成と将来に向けた会の存続のため、下記の日程で琉球大学学内での書道展を開催することにしました。琉球大学書道クラブの再結成および個人会員募集を目指しており、同窓会員のみなさんの参加をお願いします。

期 日／平成26年4月15日(火)・16日(水)

9:00~17:00

会 場／琉球大学 大学会館1階ホール

Orion
沖縄には、
沖縄のビールがある。
ORION DRAFT BEER
飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。お酒は、おいしく、適量に。のんだあとはリサイクル
オリオンビール株式会社

「お知らせ」&「お願い」

■ 会費の納入について(お願い) ■

初春の候、同窓会員の皆さまには変わらずご健勝のこととお喜び申し上げます。皆さまには、平素から同窓会活動へのご支援・ご協力を頂き衷心より感謝申し上げます。本同窓会は、昭和29年(1954年)12月4日に創立され、本年は創立60周年の節目の年を迎えます。同窓会の創立に携わった諸先輩方のご尽力を始め、これまでの会員の皆さまのご理解・ご協力により、今や本同窓会は7万余の会員を抱える県内屈指の大きな団体になっており、会員は県内外で広く活躍しております。

私たちの母校琉球大学は、平成16年に国立大学法人に移行しました。我が国と東アジア・東南アジア諸国との結節点にある琉球大学が、国内でも特色ある大学として、また、地域における知の拠点としてその役割を広げ、地域の発展により貢献することが強く期待されています。

そのためには、同窓会を含め地域と琉球大学との連携及び琉球大学への支援・協力がこれまで以上に重要になっておりますが、同窓会の収入源である会費(入会金・終身会費)収入は逡減傾向にあり、厳しい運営を

余儀なくされております。

つきましては、以上の状況をご理解下さり、出費多端な折に誠に恐縮に存じますが、会費(入会金・終身会費)の納入についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本同窓会の事業の概要は次のようになっております。併せてご覧下されれば幸いに存じます。

1. 「同窓会会報」の発行・送付(年1回)
2. 在学生課外活動奨励金(大学への寄付を通じて)
3. 在学生・卒業生への就職活動支援(教員候補者選考試験対策講座開設)
4. 大学の支援・協力(募金活動、記念行事の共同開催等)
5. 同窓会支部活動の支援(活動費補助・組織強化等への協力)
6. 在学生・卒業生を始め県民を対象とする事業(シンポジウム等の開催)
7. その他

退職される恩師紹介 (平成26年3月31日付)

～長い間、お疲れさまでした～

法文学部 教授 高 嶺 豊	教育学部 教授 富士栄登美子	農 学 部 教授 黒田登美雄
法文学部 教授 小那覇洋子	理 学 部 教授 土屋 誠	農 学 部 教授 金城 一彦
教育学部 教授 藤原 幸男	理 学 部 教授 賀数 清孝	農 学 部 教授 諸見里善一
教育学部 教授 小澤 保博	理 学 部 教授 志賀 博雄	大学院医学研究科 教授 山根 誠久
教育学部 教授 奥田 実	理 学 部 教授 萩原 秋男	産官学連携推進機構 教授 近藤 義和
教育学部 教授 加藤 好一	工 学 部 教授 宮城 隼夫	医学部附属病院 准教授 金城 福則

※掲載についてご了承いただいた先生方です。

■ 平成26年度「定期総会」等開催のご案内 ■

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| ● 期日 平成26年7月5日(土曜日) | ● 日程 支部長会 …………… 11:00～12:30(90分) |
| ● 場所 パシフィックホテル沖縄 | 定期総会 …………… 13:00～14:00(60分) |
| 那覇市西3-6-1 | ◆ 講演会 14:10～15:00(50分) |
| 電話:098-868-5162 | ◆ 懇親会 15:10～17:00(110分) |



沖縄ガス

沖縄ガス ショールーム

ゆ〜くる
YOU-KURU

沖縄ガス

検索



那覇市西 3-13-2

☎(098)863-7730【代表】

☎(098)863-7750【ショールーム】



沖縄ガス
イメージガール
きらら

環境にもやさしい
ガスで節電!!



おかげさまで55周年
地域に根ざし 世界にはばたく

One Two Smile
OTS 沖縄ツリーリスト

〒900-8602 沖縄県那覇市松尾1丁目2番3号

TEL: 098-862-1111

～学生・教職員の大学生生活を応援します～

【琉球大学ロゴマーク入り商品もあります】

- 事業内容: 食堂・旅行(各種割引航空券あります)・書籍・就職支援・部屋の紹介など
- 琉大ロゴマーク入りオリジナル商品: 「60周年記念泡盛ボトル(2種類)」 「琉球ガラスのグラス(各色)」 「ノート」 「3色ペン」 「琉球松軸のペン」 「クリアフォルダ」 「ハンカチ」 「金のしおり」 など。購入については下記までお問い合わせください。

琉球大学生生活協同組合

TEL: 098-895-2620 琉球大学内 HP: <http://kyushu.seikyou.ne.jp/ryudai-coop/>

コンピュータのことならお任せください

Asyc 株式会社アシック

代表取締役 上原 仁吉

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5丁目8番3号(新大阪サンアールビル北館)

TEL: 06-6306-5041 FAX: 06-6306-1470

E-Mail: asyc@asyc-inc.co.jp

URL: <http://www.asyc-inc.co.jp/>

生きる流れを整える 微生物のめぐみ

EM・X GOLD は、乳酸菌・酵母・光合成細菌など、人と環境に安全で有用な微生物だけを集めた「EM」の発酵の力から生まれた微生物が主役の発酵飲料です。

● お問い合わせ ●

イーエム にコール
0120-186-256

受付時間：9:00 - 17:00 (土・日・祝日を除く)



EM研究機構

〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村字喜舎場 1478 TEL:098-935-0202 FAX:098-935-0205

新中糖産業株式会社

代表取締役社長 **福里重盛**

〒903-0103 沖縄県西原町字小那覇 628 番地 1
TEL. (098) 945-3311
FAX. (098) 835-8179

本をつくって
みませんか?
相談無料です

自分の歩みを本にまとめてみたい、趣味でやっているパッチワークの作品集を残したい、料理サークルの仲間と本を出したい!わからないことが多く不安、予算が心配、聞いてみたいけど……。

新星出版の出版部スタッフは、みんな本好きで本をつくっている人たちです。わたしたちは、編集・校正・制作デザイン・印刷まですべて

自社で行っているため、迅速かつ密なチームワークが自慢の出版のプロです。ご相談には親身になってお応えしますので、お気軽にご相談ください。



写真ニュース誌
オキナワグラフ
THE OKINAWA GRAPH

新星出版株式会社

代表取締役 神谷俊明

〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-16-1 (琉球新報開発ビル2F)
TEL. 098-866-0741 FAX. 098-863-4850 E-mail: ssyuppan@nirai.ne.jp

<http://www.s-syuppan.com/>



医療法人 寿の会

首里城下町クリニック 第一第二
SHURI JOKAMACHI CLINIC

内科 (高血圧・脂質異常症・糖尿病)
腎臓病・透析・リウマチ・膠原病・循環器

琉大医学科 四期生

医師 **田名 毅** **比嘉 啓**

第一クリニック

第二クリニック

TEL: 098-885-5000 TEL: 098-833-1001

ホームページ <http://www.shuri-jc.jp>

県産食肉と消費者を信頼で結ぶ!



株式会社 **沖縄県食肉センター**

代表取締役社長 **上原 正信**

〒901-1203 沖縄県南城市大里字大城 1927 番地
TEL (098) 945-3029 FAX (098) 945-3742

<http://www.pig-osc.jp/>

人物来訪

平成25年12月3日に珍しい方々が同窓会事務局を訪ねて来られました。

兵庫県からははるばる来られたのは、全国の高等学校や大学・短大等の同窓会名簿の調査、編集、印刷事業に特化した事業を幅広く展開している「株式会社 サラト」の創業者である福田勉氏とご子息で社長の福田裕一氏でした。

福田勉氏は、創業前の昭和47年当時、大阪市にあった日本写植(株)から沖縄に転勤になり、沖縄在勤中に琉球大学同窓会の名簿出版に関わったとのことで、この経験を基に同窓会名簿出版事業を手がけるようになったとのことでした。

会社設立40周年を迎えるに当たり、同社のルーツでもある琉球大学同窓会の名簿が保存されているなら是非、確かめたいということで来県されたようでした。

当日は、当時、同窓会長として福田氏とともに会員

名簿の作成・発行に携わった市村嘉久同窓会顧問も事務局にお越しいただき、同窓会事務局に保管していた同名簿を前に、当時の思い出話に花が咲き、和やかなひとときを過ごしました。人の繋がり、縁の不思議と大切さを感じた出来事でした。



福田裕一氏、福田勉氏、市村嘉久同窓会顧問、比嘉事務局長（左から）



【編集後記】

本会報は、平成元年3月1日創刊以来、今期で36号となります。また同窓会も本年12月4日に創立60周年を迎えます。

今号では、60周年への対応方針を含め、引き続き同窓会の動きが感じられるような、幅広い多くの会員が読みやすい記事づくりに努めることとして編集作業を進めました。

内容は、大きく「事務局情報」「琉球大学支援事業」「支部活動報告」「インタビュー」「母校情報」「学生生活紹介」「お知らせ&お願い」などに分け、多彩な記事の全体像が分かりやすいようにしました。また、前号か

ら文芸活動欄を設け、文芸作品の投稿により、会員が紙面づくりに関わることで、会報がより馴染み易いものになるようにしたつもりです。

10名の編集委員には、毎回、多忙な中を集まっただけ、情熱溢れる編集作業をしていただきました。60歳の還暦を控え、より発展する同窓会であるために、同窓会の動きが見える会報になったものと思えます。

会員の皆さまには、ぜひ本会報を同窓会や琉球大学へのご理解を深める一助として、また会員相互の交流等に活用していただきますようお願いいたします。また、今後とも充実した会報が発行できますようご提言等、いただければ幸いです。



おかげさまで40周年





沖縄のIT総合サービス企業
株式会社

Ryucom

本社 〒900-0015 那覇市久茂地1丁目7番1号
琉球リース総合ビル11階
TEL: 098 (867) 2584 FAX: 098 (867) 2583
<http://www.ryucom.co.jp>

● 会報第36号 編集委員 ●

編集委員長	儀保 博信	
副委員長	上原 修	
編集委員	上原 正信	狩俣 昇男
	大兼 一夫	玉城きみ子
	大城 朝憲	友利 徹男
	加賀美英志	前泊 美紀

❧ 平成25年度定期総会・懇親会 ❧



.....◇◇◇.....

❧ 同窓会会長・副会長・事務局員 ❧

会長	幸喜徳子	事務局長	比嘉忠信
副会長	仲門勇市	事務局次長	大城朝憲
	儀保博信	総務部長	大兼一夫
	照屋寛八	書記	與那城政子
	下里義弘		
	親川啓和		

.....◇◇◇.....

琉球大学同窓会会報第36号

編集発行 琉球大学同窓会
〒903-0213 沖縄県西原町字千原1番地
Tel : 098-895-8039 Fax : 098-895-8163
E-mail : r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
HP : ryudai-dousoukai.jp
印刷 新星出版株式会社